

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 18日現在

機関番号：32689

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20730514

研究課題名（和文） 美術館と公共性に関する研究－美術館建築による開放性の創出に着目して－

研究課題名（英文） A Study of the Relationship between Museums and Publicness: Focusing on the Creation of Openness by Museum Architecture

研究代表者

藤澤 まどか（FUJISAWA MADOKA）

早稲田大学・教育・総合科学学術院・講師

研究者番号：90454008

研究成果の概要（和文）：本研究では、美術館と公共性の関わりについて、美術館建築による開放性の創出に着目し、来館者の観点も取り入れながら考察することを目的とした。そこで、“様々な人々が訪れやすく、人々や社会に開かれた活動（状態）”を開放性として定義し、美術館の公共性の保障にむけて美術館建築の果たす効果や役割を分析した。そのさい、公共性の理論的枠組みの整理等の理論研究を行うとともに、美術館の事例調査を行い、理論と実践を照らし合わせながら考察した。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to examine of the relationship between museums and publicness, focusing on the creation of openness by museum architecture and thinking about it from the perspective of museum audiences. Thereupon this study defined openness as “the feeling that various people accessible and the activities (the condition) that open to people and the society”, it analyzed the effects and the functions of museum architecture for the protection of publicness of museums. On this occasion this study carried on theoretical research into the arrangement of paradigm of publicness, et al., and case studies of museums, with checking theory against practice.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：美術館、博物館、社会教育、生涯学習、公共性、開放性、美術館建築、まちづくり

1. 研究開始当初の背景

本研究の開始当初の背景としては、主に以下の2点が挙げられる。

(1) 指定管理者制度の導入や「これからの

博物館の在り方に関する検討協力者会議」が行われ、博物館の定義や制度が見直されたことによって、大きな転換期にあると考えられた。そのため、美術館の運営・経営面や設置主体の別に限らず、美術館は公共機関として様々な人々の利用を保障するための公共性

への視点が必要であり、このような視点がなければ、美術館活動の基礎が揺らぐのではないかと考えた。したがって、美術館の基礎的研究として、美術館と公共性の関わりについて考察する必要があると考えた。

(2) 美術館の現状に関して、美術館数だけに注目すると、人々や社会に浸透しているかのように思われるが、現在でも「ハコモノ」(行政)と揶揄される場合もあるため、従来の施設観や機関の捉え方を払拭する必要があると考えた。

そこで、美術館と公共性の関わりについて考察するさいに、“様々な人々が訪れやすく、人々や社会に開かれた活動(状態)”を開放性として定義し、美術館の公共性を保障する要素として、美術館建築による開放性の創出に注目しようと考えた。

2. 研究の目的

本研究では、美術館と公共性の関わりについて、美術館建築による開放性の創出に着目し、来館者の観点も取り入れながら考察することを目的とした。

前述の研究開始当初の背景を基礎として、美術館と公共性の関わりについて、美術館建築による開放性に着目することで、“様々な人々が訪れやすく、人々や社会に開かれた活動(状態)”を行う端緒が見出せるのではないかと考えた。

そのため、美術館や美術館建築と公共性に関する理論研究を行うとともに、実践研究を併せて行い、開放性の創出に寄与する側面を分析することとした。

3. 研究の方法

本研究では、理論的な側面から美術館と公共性の関わりを明らかにするとともに、美術館の事例調査を行って、実践的な側面からも分析し、理論研究と実践研究の双方を照らし合わせながら考察した。

(1) 理論研究

本研究の研究計画を基礎としながら、理論的な側面から、以下の四つの観点から考察した。

①美術館と公共性に関する研究の基礎として、美術館活動と公共性の関わりについて、開放性に着目して考察した。また、美術館活動と公共性に着目する前提として、公共性の概念をハンナ・アーレント(Hannah Arendt)等の理論を取り上げながら整理し、美術館の

基礎的活動と公共性の関与や開放性と公共性の連関に着目した。

②美術館と公共性の関わりについて、美術館建築の役割を明確にするために、美術館建築の社会的影響に注目した。美術館建築の社会的影響に関しては、美術館の基礎的活動と照らし合わせながら、人々の記憶として受け継がれたり、文化財として継承されたりする側面を中心に考察した。

③美術館と公共性の関わりについて、美術館建築と透明性の問題を開放性の創出との関わりから分析した。まず、美術館建築からもたらされる透明性に着目し、美術館活動とどのように影響し合っているのかを明らかにした。次に、公共機関としての美術館を考えるさいに、美術館の在り方と透明性の関わりを考察した。

④美術館の公共性の保障と美術館建築の機能について、開放性を基軸とした相互作用に着目した。特に、美術館や美術館建築の公共性に関わる側面を整理するとともに、美術館と美術館建築が開放性を基軸として公共性の保障に結び付く側面を明らかにした。

(2) 実践研究

本研究の研究計画を基礎としながら、実践的な側面から考察した。

特に、美術館建築による開放性の創出について分析する具体的な視点として、第1に「美術館内部の空間構成」、第2に「美術館内部と外部の交差」、第3に「美術館の周辺地域への影響」の三つの観点から事例調査(インタビュー等も含め)を行った。

①「美術館内部の空間構成」に関しては、美術館内部の開放性について、空間の知覚に着目しながら考察した。事例調査に関しては、フランスのジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センター(Centre national d'art et de culture Georges Pompidou)や丸亀市猪熊弦一郎現代美術館等の調査を行った。

②「美術館内部と外部の交差」に関しては、美術館内部と外部の交差や相互浸透に着目しながら考察した。

美術館内部と外部の交差については、美術館建築の作用に着目し、十和田市現代美術館等の調査を行った。

美術館内部と外部の相互浸透については、周辺環境との連関に着目し、アメリカのナッシャー彫刻センター(Nasher Sculpture Center)やフォートワース現代美術館(Modern Art Museum of Fort Worth)、地中美術館、群馬県立館林美術館等の調査を行っ

た。

③「美術館の周辺地域への影響」に関しては、まちづくりや地域再生・都市再生に関する側面から考察した。

美術館とリノベーションについては、周辺地域への影響を中心に、イギリスのテート・モダン (Tate Modern) やイタリアのプンタ・デラ・ドガーナ (Punta della Dogana)、入善町下山芸術の森発電所美術館等の調査を行った。

まちづくりに関する美術館の影響については、美術館建築の独自性を中心に、スペインのグッゲンハイム美術館ビルバオ (Guggenheim Museum Bilbao) やフランスのポンピドゥー・センター・メス (Centre Pompidou-Metz)、金沢 21 世紀美術館等の調査を行った。

4. 研究成果

本研究では、研究課題に沿って、理論と実践の双方の研究を進めた。

(1) 理論研究

①美術館活動と公共性の関わりについて、開放性に着目して考察した。

まず、公共性の理論的枠組みに関する整理を行い、美術館の基礎的活動である収集、保管、調査研究、展示・教育等の活動が公共性と相互に関わっていることを明らかにした。

次に、美術館の基礎的活動には、公開活動や公共財としての性格を保有する作品や資料との関わり等が含まれていることから、美術館の基礎的活動の根底に公共性と関わる要素が見出せることも明らかにした。

そして、美術館の公共性の保障にむけて、開放性と公共性の連関に着目し、“公開すること”や“人々・社会とのつながり”が重要であることを指摘した。

美術館活動と公共性については、美術館の基礎的活動と公共性に留意し、公開性を保持しながら、多様性を保障し、人々や社会の間に存在する機関として捉える重要性も明示した。

②美術館建築の社会的影響について、記憶と継承の観点から考察した。

まず、美術館建築と美術館活動のつながりに注目し、美術館建築の保持する保護機能による記憶との関わりや展示・教育活動の場の創出による作品や資料の継承との関わりを分析した。

次に、美術館が美術館建築を介して、ランドマークとして機能したり、境界線となった

りするため、公共性の観点からみると、全ての人が利用できるような開放性を創出することが重要であることを指摘した。

そして、美術館建築が地域の中の風景の一部として位置付けられることで、人々は美術館の周辺地域との関係を考慮しながら美術館を認識することが見出せた。そのため、公共機関としての美術館を考えるさいには、美術館や美術館建築だけでなく、まちづくりや都市計画との関わりを視野に入れ、時間的・空間的な面から関係性の中で理解する重要性を明らかにした。

③美術館と透明性の問題について、開放性の創出との関わりから考察した。

まず、美術館と透明性の関係を明らかにする前提として、透明性の定義を整理した。

次に、上記の透明性の定義をもとに、美術館建築の開放性の創出と透明性が関与していることを明らかにした。

そして、美術館建築と透明性の問題には、単に美術館建築が透明性であるということだけではなく、美術館建築に美術館のコンセプトが反映される場合があるため、美術館建築が美術館の在り方を表現する媒体としての役割を保持していることを指摘した。また、美術館の透明性が、美術館活動や美術館建築の説明責任 (アカウントビリティ) の保証につながり、美術館と人々や社会とのコミュニケーションの基礎となつて、信頼関係の構築に資する側面を明らかにした。

美術館建築と透明性の問題については、美術館活動とともに開放性の創出に寄与し、様々な人々の利用を可能にさせる契機となるため、美術館の公共性の保障に寄与する側面を指摘した。

④美術館の公共性の保障と美術館建築の機能について、開放性を基軸とした相互作用に着目しながら考察した。特に、理論研究と実践研究の成果を基礎として、総合的な視点で考察を行った。

まず、美術館の公共性の保障について整理し、収集、保管、調査研究、展示・教育等の美術館の基礎的活動を前提としながら、作品や資料への近づきやすさを中心に分析した。

次に、美術館建築の機能と公共性の保障について、美術館への入りやすさに注目し、美術館建築の在り方が開放性を感じられるような構成であることが公共性の保障につながることを明らかにした。また、美術館建築による開放性と境界線的作用に注目し、周辺環境・周辺地域との関わりを意識したり、まちの風景をかたちづくる要素として認識したりすることで、美術館としての独自性や専門性は保ちつつも、美術館建築による境界線が解かれる側面も指摘した。

そして、美術館と美術館建築をつなぐ開放性について、美術館と人々や社会との信頼関係の構築と開放性の関わりや美術館を取り巻く相互作用による開放性に注目して考察した。その結果、美術館の公共性の保障と美術館建築の機能が、開放性を基軸に結び付くことが明らかになった。

(2) 実践研究

実践研究を進めるさいの事例調査に関しては、インタビュー等も行い、詳細な実態把握に努めた。

①「美術館内部の空間構成」に関しては、美術館内部の開放性について、空間の知覚に着目して考察した。

まず、来館者の鑑賞体験と結び付けながら、来館者と空間の知覚について分析を行った。

次に、ジョルジュ・ポンピドゥー国立芸術文化センターや丸亀市猪熊弦一郎現代美術館等の調査結果を基礎として、美術館内部の構成を分析した。

そして、美術館内部の開放性を創出する要素として、空間と空間の連関、美術館外部とのつながり、美術館のコンセプトとの関わり等の3点を挙げ、美術館建築の工夫によって開放性が創出されることを明示した。

また、美術館内部の開放性の実現によって、美術館が公共機関として開かれた活動を行う糸口になることを明らかにした。

②「美術館内部と外部の交差」に関しては、美術館内部と外部の交差や相互浸透を中心に考察した。特に、美術館内部と外部の関係や周辺環境の取り入れ方による開放性について明らかにした。

美術館内部と外部の交差については、十和田市現代美術館等の調査結果を基礎として、美術館内部と外部の構成について、ガラスの使用、建築物（展示室）の建て方に注目して考察した。その結果、美術館内部と外部の交差によってもたらされる効果として、美術館の透明性、美術館と地域の関係の認識を指摘した。

美術館内部と外部の相互浸透については、ナッシャー彫刻センターやフォートワース現代美術館、地中美術館、群馬県立館林美術館等の調査結果を基礎として、美術館建築と周辺環境の関係を分析した。特に、美術館内部と外部の相互浸透をもたらす要因として、景観としての周辺環境を認識することや作品と周辺環境との関わりや美術館内部と外部の行き来が挙げられ、美術館内部から外部、美術館外部から内部という双方向の関係性を認識する糸口となり、美術館内部と外部の境界線が解かれて開放的な雰囲気を生み出

すことを指摘した。また、美術館内部と外部の相互浸透によって、美術館建築の在り方に関して、美術館建築がまるで消失してしまったかのように機能したり、美術館建築の保護機能と開放性のバランスをとったりする必要性が見出せた。そのため、美術館建築の工夫によって、開放的な活動を行う基礎となることを明らかにした。さらに、美術館建築による開放性ととも、人々の美術館活動への参加も重要であり、美術館の周辺環境や近隣の施設・機関、来館者や地域住民や他の人々といった様々な関係性の中で成立していることを理解する必要性も指摘した。

③「美術館の周辺地域への影響」に関しては、周辺地域と関わることで生じる開放性やまちづくりや地域再生・都市再生に関与する側面について考察した。

周辺地域との関わりの中でも、美術館とリノベーションについては、周辺地域への影響を中心に考察した。その前提として、リノベーションの定義を整理し、テート・モダンやプンタ・デラ・ドガーナ、入善町下山芸術の森発電所美術館等の調査結果を基礎として、リノベーションされた美術館建築の周辺地域への影響について、美術館と既存の建築物の歴史性、美術館へのコンバージョン、美術館としてのリノベーションと地域再生の3点から分析し、美術館建築の開放性の創出に寄与する側面を明らかにした。さらに、美術館としてのリノベーションによって、美術館のサイトスペシフィックな性質が顕示され、美術館と周辺環境・周辺地域の関係性の再考や美術館の周辺地域の住民や周辺環境とのネットワークの形成に関わる視点を明示する作用が含まれるため、周辺環境・周辺地域との関係構築にも密接に関わることを明らかにした。

まちづくりに関する美術館の影響については、美術館建築の独自性を中心に考察した。グッゲンハイム美術館ビルバオやポンピドゥー・センター・メス、金沢 21 世紀美術館等の調査結果を基礎として、まちづくりと美術館の関係を整理し、地域再生・都市再生に関与する側面を分析した。また、上記の調査結果から、美術館建築の独自性を形成する要素として、美術館建築の曲線的要素、美術館建築の素材、周辺地域のコンテクストの反映が挙げられ、美術館建築の独自性と開放性の創出に結び付いていることを明らかにした。さらに、まちづくりとの関わりの中で美術館活動や美術館建築の在り方を再考することで、公共機関としての美術館の役割や社会的意義が明確になることが見出せた。さらに、美術館の公共性を考えるさいにも、まちづくりや周辺環境・周辺地域との関係性を視野に入れることで、人々や社会に開かれた美術館

活動を行えることも指摘した。

(3) 上記の研究成果については、論文や学会発表の形で公表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

①藤澤まどか「美術館の公共性の保障と美術館建築の機能－開放性を基軸とした相互作用に着目して－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 19 号-2、2012 年、pp. 49-58。

②藤澤まどか「美術館とリノベーション－周辺地域への影響を中心に－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 19 号-1、2011 年、pp. 13-22。

③藤澤まどか「美術館建築と透明性－開放性の創出との関わりから－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 18 号-2、2011 年、pp. 33-42。

④藤澤まどか「美術館内部と外部の相互浸透－周辺環境との連関から－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 18 号-1、2010 年、pp. 225-236。

⑤藤澤まどか「美術館建築の社会的影響－記憶と継承の観点から－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 17 号-2、2010 年、pp. 59-68。

⑥藤澤まどか「美術館内部の開放性に関する一考察－空間の知覚に着目して－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 17 号-1、2009 年、pp. 85-96。

⑦藤澤まどか「美術館活動と公共性に関する一考察－開放性に着目して－」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』査読有、別冊第 16 号-2、2009 年、pp. 81-91。

⑧藤澤まどか「美術館内部と外部の交差－美術館建築の作用に着目して－」『学術研究－教育学・生涯教育学・初等教育学編－』査読無、第 57 号、2009 年、pp. 7-19。

[学会発表] (計 5 件)

①藤澤まどか「まちづくりに関する美術館の

影響－美術館建築の独自性を中心に－」関東教育学会、2011 年 11 月 13 日、東京学芸大学。

②藤澤まどか「美術館とリノベーション－周辺地域への影響を中心に－」関東教育学会、2010 年 10 月 24 日、聖徳大学。

③藤澤まどか「美術館内部と外部の相互浸透－周辺環境との連関から－」関東教育学会、2009 年 11 月 1 日、国士舘大学。

④藤澤まどか「美術館内部と外部の交差－十和田市現代美術館を中心に－」関東教育学会、2008 年 10 月 26 日、早稲田大学。

⑤藤澤まどか「美術館内部の開放性に関する一考察－公共性の観点から－」日本社会教育学会、2008 年 9 月 20 日、和歌山大学。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤澤 まどか (FUJISAWA MADOKA)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・講師
研究者番号：90454008

(2) 研究分担者 なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者 なし ()

研究者番号：